【家庭数】

横浜市立永谷小学校　　令和8年10月28日

学校だより

ながや

子どもたちの様子についてホームページを活用してお知らせします。月１回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。

学校ホームページ
QRコード

「真化（シンカ）」した運動会

教務主任　星野　敦史

澄み渡るような青い空の下、10月17日に「永谷スポーツフェスティバル2026」が開催されました。

創立５１周年の今年。永谷小学校の子どもたちが考えたキーワードは「シンカ」です。創立50周年を迎えた昨年度からさらに一歩前へ進み、より素敵な学校を目指していこうという思いのもと、子どもたちは日々さまざまな場面で創意工夫を重ねています。

１年間かけて、シンカのカギを完成させるべく、様々な行事で自分たちの成長の願いを込めた「シンカパール」という宝石を全員でゲットしていきます。

そんな子どもたちが、今年の運動会で目指した「シンカ」は、

「真剣」に競技に取り組む。「真剣」に演技をつくり上げる。「真剣」に仲間を応援する。そして何より、運動会当日だけではなく、そこに至るまでの時間も大切にしながら、一人一人が精一杯取り組む

↓

真化（シンカ）　でした。

子どもたちが練習を重ねる中で、振り返りと挑戦を繰り返しながら前進している場面をたくさん目の当たりにしました。私が子どものときは、運動会の演技、競技の練習は先生から言われたことを身に付けるような時間がほとんどでした。しかし、永谷小学校は、全学年に児童中心のスポフェス実行委員がいて、毎回の練習の目当てや振り返りを子どもたちが主体となって考え行います。実行委員がリードしてもっとよい演技にするにはどうすればよいか、もっと気持ちのそろった応援にするにはどうすればよいかなどをみんなで考えます。

また、なかよし班での活動では、友達や異学年の仲間と声を掛け合いながら前に進んでいく姿が多く見られました。

前日には、「早く明日にならないかな。」「絶対に成功させたい。」「がんばるぞ。」そんな声があちらこちらから聞こえてきました。そのわくわくした気持ちは、自分たちが真剣に積み重ねてきたからこそ生まれたものだったのでしょう。

当日の競技や演技はもちろん素晴らしいものでしたが、私はそこに至るまでの過程にこそ、子どもたちの「真化」を感じました。それと同時に、行事には子どもたちを大きく成長させる力があることを改めて実感させられました。

さあ、子どもたちはどのような「シンカ」を次の機会に見せてくれるのでしょうか。これからの永谷小学校、そして子どもたちの成長がますます楽しみです。教職員一同、子どもたちの成長をこれからも「真剣」に応援していきます。

最後になりますが、運動会の運営にあたり、保護者の皆様をはじめ、地域学校協働本部の皆様、PTA役員の皆様、下永谷連合スポーツ推進委員の皆様、学援隊の皆様にたくさんのご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

星野が感じた永谷小の「シンカ（進化）」の姿　３つ！

1　なかよし班競技にチャレンジ！！
2　競技中も大活躍の応援団
3　みんなで盛り上がった全校エールウェーブ！

永谷小学校の運動会は毎年いろいろな変化があります。今まで赴任した学校では見られない光景です。子どもたちとともに進化（シンカ）し続ける永谷小を誇りに思っています。